

# 父親の子育て



文 前島 常郎

長女が生まれたとき、「うれしい」というより、「とうとう父親になってしまった」と、ひたすら不安で産院の廊下をうろつき回りました。幼稚園や学校に入ってからは、行事に出るのが苦手でした。実は、「お父さん」をする自信がなかったのです。でも、二十五年間を振り返ると、天の父が私の味方だったなと思います。

## 天の父は、助けを求める父親の祈りを喜んで聞かれます

子育ては、何よりも母親の責任ですが、聖書は、「母たちよ、子育てに励みなさい」ではなく、「父たちよ、子どもを育てなさい」（エペソ 6・4）と言います。母親は黙っていても心が子へ向くの、父親は黙ってれば、心が100%仕事に向いてしまします。でも、それでは家庭は立ち行きません。父親としての仕事は、自力ではできません。ですから祈ります。

「男は、怒ったり言い争ったりすることなく、どこでもきよい手を上げて祈るようにしなさい」（第一テモテ2・8）

「父には、子どもを怒らせるくらいがあります」

わざわざ「子どもをおこらせてはいけません」（エペソ 6・4）と忠告されているのは、その危険があるからです。怒りそのものは罪でなく、自然な感情ですが、愉快ではなく、罪につながりやすい性質があります。「怒っても、罪を犯しては

かりません、助けてください！」

天の父は、祈るお父さんを助けられないではおられません。

## 父には、子どもを怒らせるくらいがあります

なりません」（エペソ 4・26）敬うべき父親に怒りを感じることは、つらいことです。父親は、どのように子どもを怒らせるのでしょうか？

「愛すべき時に愛さない」ことによつてです。

生物学的には父になったのに、父であることを認めず責任を取らないとしたら、子どもは激しい怒りを持つかもしれません。

新垣勉さんは、沖縄出身のクリスチャン歌手です。母は日本人で、父は米軍人でしたが、1才の時に父は米国に帰国し、五十年後の今も行方が知れません。一時は、父親を捜し出して殺してやると決めたくらい憎んだそうです。赦す気持ちになるには、長いことかかりました。

「抱擁するのに時がある」（伝道者の書 3・5）と言われますが、幼子は、母親だけでなく、父親の抱擁も待っています。特に2〜3歳の男の子は、父親とつながろうとします。その時に、父親と絆を結べないことが、男性が同性

愛者になる一つの原因だろうと専門家は言います。もう一つ、父親が子を怒らせるのは、

「叱るべきときに叱らず、怒らなくていい時に怒ること」によつてです。

「父がかわいいがる子をしかるように、主は愛する者しかる」（箴言 3・12）

叱ることと、怒ることはちがいます。怒るのは感情をぶつけることで、叱るのは悪いことは悪いと、びしっと言えすること。これは男親のいい所です。聞き分けのない子にお母さんがヒステリーっぽく金切り声を上げる前に、お父さんが一言低い声で叱ると、お母さんは助かります。

威厳をもって子どもを叱るには、父親自身が悪から離れねばなりません。子どもは、親の生活の裏表をよく見ています。ある人は言いました。「親が上手に隠しおさせたと思つた足跡に、子どもはついていくものだ」

タビデ王は、情欲に負けて人妻を奪い、うまく隠したと思いましたが、似たことを息

子のアムノンが行いました。タビデ王は、息子を叱ることができなかつたのです。

また、親は子どものためを思って懲らしめるのではなく、自分の思い通りにしない子どもを、感情で叱りどばすことがあります。そうすると子どもは、叱られた苦い思い出だけを覚えてしまいます。三番目に、

## 手放すべき時に子どもを手放せない親は、子どもを怒らせます。

「抱擁をやめるのに時がある」（伝道者の書 3・5）

抱きしめてやるべき時があるように、手放してやる時もあります。そのとき逆にしがみついたら、子どもは怒ります。そして親を軽蔑します。ただでさえ激しい思春期の反抗が、もっと激しくなります。

## では、どうしたらいいでしょう？

天の父のしつけにならうこととです。新共同訳聖書エペソ 6章4節後半では、「主がし

つけ諭されるように、育てなさい」とあります。具体的に、子どもを怒らせることの逆をします。

### ○楽しい時間をすこす

つまり、愛すべき時に愛するのです。天の父は、私たち子どもとの交わりの時間を惜しみません。森陽外は、子どもたちと過ごす時間を楽しむ、いい父親でした。4人の子どもたちはみな、お父さんの思い出を書きつづけています。

ある父親が、すでに成人して家庭を持った子どもたちに質問してみました。

「お前たちが子どもだった頃で、今でも残る思い出は何だいい？」

デイズニールランドでしょうか？遠くに家族旅行したことでしょうか？高いおもちゃを買ってもらったことでしょうか？いいえ、答えはこうでした。

「お父さんと居間でプロレスごっこをして、腹の皮がよじれるほど笑ったことだよ。子どもにとって、一緒にいてくれる親、楽しい時間を過ごしてくれる親がどうしても

### ○天の父を教える

自分の子に神さまを教えるのに、免許状はいりません。これは、神から親への直接命令です。

箴言の1〜7章には、「わが子よ」という呼びかけが、二十回近く出てきます。これは、父親ソロモンから、子どもへの教えです。ソロモンが、自分は自分の父からこう教わつた、と息子に語って聞かせます。「私が、私の父には、子であり、私の母にとつては、おとなしいひとり子であったとき、父は私を教えて言った：」（4・3〜4）

何を教えるのでしょうか。それは、学校の知識ではなく、神さまがおられることです。自分のことばでできなくても、本を読んで聞かせることができます。

読み聞かせには、力があります。私は子どもが0歳から

読み聞かせをしました。聖書物語だけではなく、あらゆる絵本をです。家内は、「子どもたちが本好きになったのは、あなたが絵本をたくさん読み聞かせてくれたからだわ」と言います。

私が幼児の時に嬉しかったことは、風邪で寝ている私に、母が添い寝して本を読み聞かせてくれたことです。思い出すだけで、幸せになりました。読み聞かせをしてもらう子どもは、本の内容だけでなく、読む人の愛情を声音を通して吸い取ります。

### ○自分を抑えることを教える

「自分の心を制することができない人は、城壁のない、打ちこわれた町のような。」（箴言 25・28）

食べ物も娯楽も、欲しければいくらでも手に入る時代です。親は、何を与えるかより、何を与えないかを考えるべきです。子どもが欲しがらないことと、無制限に与えないこととです。甘いものだけを与えていたら、虫歯や肥満になります。目や耳から入る

ものも同じです。

現代の親の大きな責任は、メディアを制限することです。テレビやビデオやゲーム類は、育ち盛りの子どもの脳の働きを鈍らせるそうです。ケータイに熱中し、礼拝中もピコピコをやめない子がいました。ある時、自分から解約しました。自戒心を身につけたのです。

お父さんといふことが楽しければ、父のしていることを真似したいと自然に思えます。お父さんを好きになるなら、天の父も自然に好きになります。お父さん、仕事は確かに大変ですが、抱っこできる時は限られています。遊んでやれるうちに遊んでやりましょう。お父さんの代わりは、誰にもできないのです。親にとっては何となく、子どもにふれあひの時間が、子どもにとって一生の宝になるのです。



お断り シリーズ「クリスチャン2世のみんなへ」は、今回はお休みです。